

# 福澤思想の現代的意味

池田幸弘

# Who is 福澤諭吉?

- 慶應義塾の創立者。1858年に開設された蘭学塾が起源。だが、義塾の創設については1868年説もある。
- 事業家。丸善、横浜正金銀行など、多くの企業の創設に関与。
- 著作家。『学問のすすめ』をはじめ、多くの著作を刊行。日本の近代化に貢献。ただし、『脱亜論』などにみられる言説については批判も。

# 何を読むべきか

- 文体、内容から見て平易なのは『福翁自伝』
- 当時のベストセラーであり、福澤入門として適しているのは『学問のすすめ』→ただし、文体は古めかしい。現代語訳もある。
- 福澤の最高傑作といえるのは、おそらく『文明論之概略』→丸山眞男の『文明論之概略を読む 上下』岩波新書を指針として読む、あるいは丸山の同著を読んでから、とりかかる。

# 学問のすすめ: 刊行事情

- 元来は、故郷である中津に学校を開設するにあたり、書かれた小冊子。1872(明治五)年刊行。
- 二十二万部も売れて、偽版もでるほどの人気。多くの日本人が読んだ。
- これを受けて、明治六年に、二編、三編が刊行される。

# 法の下での平等、形式的平等

- 「天は人の上に人を造らず人の下に人を造らずと言えり。」(1)
- →「言えり」とあるように、これは引用。
- アメリカ独立宣言が出典だという人もいるが、不詳。
- 本書で、もっとも有名な個所で、教科書にも紹介されている。

# 人間の違いはどこから生ずるのか

- つづいて「されども今広くこの人間世界を見渡すに、かしこき人あり、おろかなる人あり、貧しきもあり、富めるもあり、貴人もあり、下人もありて、その有様雲と泥との相違あるに似たるは何ぞや。…賢人と愚人との別は、学ぶと学ばざるとによっていで来るものなり。」(1)
- →本書の主題。

# 福澤の職業観: 知識人偏重か

- 「むつかしき仕事をする者を身分重き人と名づけ、やすき仕事をする者を身分軽き人という。すべて心を用い心配するしごとにはむつかしくして、手足を用いる力役はやすし。」(1)
- →力仕事は軽視されている印象。武士階級の出身が意識せずとしても、あらわれた個所か。
- ※ 福澤は武士としては下層であり、身分は高くない。

# 何を学ぶべきか

- では、どのような学問をおさめればよいのか。
- →「学問とは、ただむつかしき字を知り、解しがたき古文を読み、和歌を楽しみ、詩を作るなど、世上に実のなき文学を言うにあらず。」(1)
- 「いろは四十七文字をならい、手紙の文言、帳合の仕方、そろばんの稽古、天秤のとりあつかい等をこころえ、また進んで学ぶべき箇条は甚だ多し。」(1)地理学、究理学、歴史、経済学、修身学などにふれる。

# 何を学ぶべきか

- 「学問の本趣意は読書のみならずして精神の働きの在り。…『オブセルベーション』とは事物を視察することなり。『リーズニング』とは事物の道理を推究して自分の説をつくることなり。この二箇条にてはもとより未(いま)だ学問の方便を尽くしたりと言うべからず。なおこの外に書を読まざるべからず、書を著さざるべからず、人と談話せざるべからず、人に向かつて言を述べざるべからず」(12)

# 惑溺にたいする警戒

- 「文明の進歩は、天地の間にある有形の物にしても無形の人事にしても、その働きの趣きを詮索して真実を発明するに在り。西洋諸国の人民が今日の文明に達したるその源を尋ねれば、疑の一点より出でざるものなし。」  
(15)
- 「惑溺」を排する福澤の姿勢→「多事争論」のすすめ。

# 重要なものはたいてい民間人が作った

- 「西洋諸国の史類を案ずるに、商売工業の道一として政府の創造せしものなし。そのもとは皆中等の地位にある学者の心匠になりしもののみ。蒸気機関はワットの発明なり、鉄道はステフェンソンの工夫なり、はじめて経済の定則を論じ商売の法を一変したるはアダム・スミスの功なり。この諸大家はいわゆるミッツルカラッスなる者にて・・・」(5)この時代にいわゆる中流階級はあったのか。スミスは中流といえるのか。

# 人民と政府は対等だ

- 「そもそも政府と人民との間柄は、…ただ強弱の有様を異にするのみにて権理の異同あるの理なし。百姓は米を作って人を養い、町人は物を売買して世の便利を達す。これ即ち百姓町人の商売なり。政府は法令を設けて悪人を制し善人を保護す。これ即ち政府の商売なり。」(2)政府と人民との関係は上下の関係ではなく、お互いの職分を忠実に果たすことが重要。

# 行政サービスは安いものだ

- 「人民は既に一国の家元にて国を護るための入用を払うはもとよりその職分なれば、その入用を出すにつき決して不平の顔色をあらわすべからず。国を護るためには役人の給料なかるべからず、海陸の軍費なかるべからず・・・運上を払うて政府の保護を買うほど安きものはなかるべし。」(7)租税制度を説明している個所。行政サービスを買う手段としては、安いものだ。文句をいってはいけない。

# 福澤思想の意味

- 国民と政府との関係はあくまで対等→国民は当事者意識を欠いてはならない。
- 政府を上に見つつ、これを安易に批判するという立場ではない。
- 必要な行政サービスを購入するには、それだけの支出が必要。